

ATACの東北支援活動を振り返って

一般財団法人大阪科学技術センター ATAC 運営委員長 梶原 孝生

東日本の大震災から既に3年がたちました。しかし、その復興はまだまだ遅々として進まず、現地のご苦労は続いています。

被害地は、大きく分けて福島原発被害領域、東北地方内陸部、三陸海岸で知られる沿岸部の3領域に分けられるでしょう。

原発被害地はまだ避難されている方々が多く、また、毎日、放射能測定値に生活を奪われています。一方、沿岸部は、津波対策でまだまだ土地の盛り上げに苦労しています。土地の盛り上げには、地主の了解が必要ですが、地権者を見つけ出す苦労は現地の行政の大きな負担になっています。地権者は場合によっては国内に居なかったり、明治までさかのぼって調べなければならず、その苦労は並大抵ではありません。不明の地権者の了解を飛ばして区画整理を進めようとした現地の行政も、政府からノーをつきつけられ、困惑しているところもありました。

内陸部は地震の被害は大きかったものの、その復興は着々とすすめられ、今では内陸部の中小企業は元気に復興に励んでいる現状が見えました。しかし、内陸部のモノ造り中小企業も、3.11で失った顧客の痛手が大きく、新たなマーケット探しに苦労している現状が見えました。

ATACも一昨年からAHS(ATAC 東日本 支援)プロジェクトを立ち上げ、現地の中小企業を全て無償で技術支援を続けてまいりまし

た。既にATACニュースの既刊でその都度の報告をしてまいりましたが、今回は今までの支援の歩みを総括いたします。

一昨年はまず現地の公的機関、宮城県経済商工観光部新産業振興課、公益財団法人東北活性化研究センター、公益財団法人仙台市産業振興事業団、宮城県産業技術総合センター、公益財団法人みやぎ産業振興機構、社団法人みやぎ工業会、さらに岩手県復興局、岩手県商工労働観光部、地方独立行政法人岩手県工業技術センター、北上市基盤技術支援センターなどを訪問、現地の情報を得るとともにATACの東北支援のプロジェクトの協力をお願いしました。

更にATAC独自に仙台の中小企業、石巻の中小企業を訪問、工場を見学し支援を申し出ました。この石巻の企業には新たな製造技術を紹介し、大阪の中小企業との技術マッチングが現在も継続しています。この案件は東北の最大手新聞「河北新報」にも記事として紹介されました。

昨年は、岩手県を主として訪問し、三陸海岸の宮古の中小企業を訪問、さらには釜石、大船渡の中小企業を訪問し、支援の可能性を検討してきました。

これらの東北モノ造り企業は素晴らしい技術、製品をもっており、今後はこれらの技術と関西企業とのマッチングの可能性を継続調査し、支援してゆく予定です。

第 11 回 ATAC 講演会を開催しました

～ 中小企業の秘策を一挙公開 ～

本年去る3月19日大阪科学技術センターにおいて恒例の ATAC 講演会を開催しました。ATAC メンバーからの2件の講演に引き続き、特別講演として株式会社エンジニアの代表取締役社長高崎充弘様をお招きし「ネジザウルス GT の開発から得られた『MPDP』」と題しヒット製品開発の秘訣をお話頂きました。



最初は ATAC メンバー小山圭一から「機械加工のワーク搬送の自動化について」の講演でした。自動車部品の自動生産ラインでの豊かな経験を基に、①ワーク搬送の形、②搬送自動化の方法、③設備停止の原因、④搬送自動化の実例、という内容でした。

自動化では稼働率が最も重要でライン停止はどんなことがあっても避けなければなりません。しかしその原因は、意外に些細な事が多いものです。

設計上の問題よりも現場での観察で的確に直せる場合が多いことを色んな事例で説明、ものづくり現場ですぐに役立つと共感を受けました。



2番目は ATAC メンバー坂井公一から「会社業績を伸ばすパソコン活用技術」の公演でした。身近なパソコンの EXCEL を利用し様々な解析を行うもので①同アドインによる重回帰分析プロ

野球 2013 年シーズンの査定 ②クラスター分析とデンドグラム図（系統樹）の作成 ③市場調査に必要なサンプル数の算定 ④ USB 端子を用いたマルチチャンネル温度プロファイル計測 ⑤超低振動スペクトル解析による住宅の固有振動数測定事例 が紹介されました。パソコンが広く使用されている現在、既に標準品として内蔵されているソフトを如何に有効活用できるかを具体例を示しながらの説明には多くの方々から興味が示されました。



さて、最後に特別講演の（株）エンジニア 代表取締役高崎社長様による「ネジザウルス GT の開発から得られた『MPDP』」がありました。当社はネジ山が潰れたネジを外せる工具などヒット商品の開発で有名です。高崎社長様が提唱される「MPDP」は「ネジザウルス GT」の大ヒットで実証された理論で、M P D P は、Marketing、Patent、Design、Promotion の頭文字をとったものです。これら要素が揃ったときにはじめて、ヒット商品が生まれるというものです。「ネジザウルス GT」では、M、P、D の3つの条件が揃った製品を投入したところ、売り上げが従来品の倍増を記録し、最後の P についての工夫を重ねることで、さらに 1.5 倍の売上を達成されたとのこと、全員が感動を受ける場所でした。

また知財技能資格を社員 30 名中 9 名が取得され、社内の知財知識のレベルアップにも尽力されています。さらに、社長自ら、知的財産教育協会の中に『中小企業センター』を立ち上げられ、中小企業の知的財産に関する声を国に届けることを目的に活躍されているそうです。このように社内に留まらず、国内の中小企業全体の活性化を念頭に置いた幅広いご活躍に我々は深い感銘を受けました。（佐々木、田中、まとめ池田雅）



感動と幸せを呼ぶ革新の物作り

株式会社新幸機械製作所
代表取締役社長 塚崎 武

新幸機械製作所は創業 80 年、会社設立 54 年を迎える会社です。ダンボール専用フレキシ印刷機を日本で始めて開発した会社で、数々の特許も保有する段ボールに特化した紙工機メーカーです。

近年は中国を代表とする東南アジア地域におけるの販売が急増しており、今後も更に地域の拡大を目指しておりますが、台湾や中国の同業メーカーが日本への進出を加速しており、日本市場に影響を与え始めています。中国が日本製を求め、



ダンボール印刷機

日本が中国製を求める妙な現象を体感しておりますが、なお一層革新的な技術や販売形態を開発することでグローバル化に対応したいと思います。

ATAC には新規開発のお手伝いから、産学連携、生産システムの構築、品質管理など経営に関することから技術的なものまで幅広くご支援頂いております。又弊社担当のスタッフの皆様は非常に熱心な方ばかりで大変感謝致しております。

段ボールの加工や加工機械又包装などについて、ご質問があれば是非ご相談下さい。



株式会社新幸機械製作所

〒557-0063 大阪市西成区南津守 7-15-18
TEL 06-6661-7121
FAX 06-6657-2921
URL <http://shinkom.com>

ATAC ひと言

ATACの品質管理検定（QC検定）のための

オーダーメイド・出前研修

昨年秋に ATAC が「品質管理検定（QC検定）の 3, 4 級対策」の研修講座を開催するとご案内したところ、数社から「会社に出向いて社員に研修してほしい」と要請があり、企業の実態に合ったプログラムで研修を始めました。これまでに実施した 2 社について概要をご紹介します。

（株）新幸機械製作所（大阪市）は、国内外で有力な段ボール印刷機の製造会社で、10月のキックオフ大会で、塚崎社長は「創業80年、世界に飛躍する会社をめざして全社員が品質管理を向上させる元年としたい」と宣言されました。

（株）タツタ合成工業所（奈良県御所市）は、プラスチック成形加工、化粧品容器等のキャップの製造会社です。田畑社長は「顧客に良い品質の製品をお届けして、一層の信頼を得るためにQC研修を実施し、QC体制を確立したい」と宣言さ

れ、社長自ら各部署の推進リーダーと共に受講されました。

研修は、両社とも約 10 名の受講生を対象に、会社の実状に即して 5 回の研修会を実施しています。研修内容は、QC 検定をベースに、「儲かる会社、工場をめざして！」のスローガンの下、
①良品質の製品を各工程でどのようにして作るか
②QCの基礎知識からQC手法とその活用法
③クレーム・品質不良の要因解析と是正処置対策
④ISO9001 マネジメントシステムの紹介（導入の狙いと認証取得までのスケジュール）などを内容としています。

今後は、具体的なテーマでQCサークル（小集団）活動に取り組む予定ですが、両社とも社員がQC検定合格にチャレンジする機運が高まっています。（多根井）



ものづくり成長戦略

「産・金・官・学」の地域連携が日本を変える

藤本隆宏 柴田孝 編著

2013年8月20日 光文社 740円+税

～日本の強みは「現場」にある。チャンスを活かす発想と実践～

本書の冒頭で著者が「経営者が本当の意味で経営をしていないと感ずることが多い」と切り出しました。これが本書で述べられる「ものづくりのあるべき姿」を示唆しようとする問題提起であると思えます。最近、「ものづくり」という言葉があちこちで流行語のように使われ、実際の現場と乖離している場面を見るにつけ、著者が真のものづくり復活を願う想いをこの言葉から感じることができました。

さて、まず取り上げられていることは、ものづくりにとって「固有技術」と「設計情報の流れを作る技術」が不可欠で、双方がバランスよく機能しなければ、さまざまな問題が現場で発生するということです。著者は「設備を買ったら助成」といった風潮を例に「固有技術」への偏重に警鐘を鳴らしています。「設計情報の流れを作る技術」とは、ものづくりの最適化を目的に、計画・設計・製造・購買・在庫・品質・出荷・原価管理等の適正な仕組作りと人材の育成を行ない効率かつ持続可能な経営を導く技術ということで、その視点で日本のものづくりの現場を見た場合、「現場のものづくりの改善により、生産性で大きな伸び代

を持っている」という著者の考えに共感できます。

それでは「そのような技術を持った人材をどのように育成するか」ということを本書では事例として「東大スクール」が挙げられており、「東大発、地域へ」という流れが説明されています。また、ものづくりの現場となる地域についても、新たな地域産業政策が展開され、地域が一体となって進める動きも紹介され、それらが日本のものづくり復興の胎動ではないかとの期待感を持ちました。

IT化が思わぬ方向に進んだ結果、トヨタの言うニンベン（人が主役となる）の自動化を再認識すべき時期に来ていることを痛切に考えさせられる一冊と思います。（行俊）



ATAC活動の内容 PR

1. コンサルティング

中堅・中小企業の皆様のお悩みを解決するテーマ「経営相談、新製品開発、特許出願、原価管理、生産管理システム、品質管理、事業継続計画、ISO9001, 14001認証取得、公的資金の導入」などの支援をします。

2. セミナー開催・講師派遣

従業員教育・研修（管理職から新入社員まで）および専門固有技術分野の研修について、貴社のニーズにマッチしたカリキュラムを提供します。

3. 書籍刊行

ATACメンバーの豊富な知識と現場で蓄積したノウハウを書籍として、刊行しています。

既刊書籍（中小企業の環境対策指針、目からウロコのアドバイス、経営便利帳など）

4. 講演会、社長懇話会

タイムリーなテーマの講演会、社長はじめ経営幹部が、メンバー会社を見学し、企業間の交流のお手伝いをします。

編集後記

新年度が始まり、新しい事業や体制をスタートした企業様も多いのではないのでしょうか？ ATACでは本号で紹介したQC検定セミナーの他、RWFや省エネ対策にも力を入れています。是非お声かけ下さい。（長岡）

ATAC事務局

*ATACニュース、Webに関するご意見、ご要望なども、どしどしお寄せ下さい。

〒550-0004 大阪市西区靱本町1-8-4 一般財団法人 大阪科学技術センター技術振興部

Tel 06-6443-5323 E-mail atac@ostec.or.jp

詳しい事業内容、最新情報はコチラからご覧ください ▶▶▶ URL <http://www.atac.ne.jp>